

# 第7分科会「里山と生物多様性」

「里山の生物の多様性がささえるなりわい」

日 時：2007年7月1日(土)10時00分～17時00分

場 所：千葉県立中央博物館

参加者：58名

## 趣 旨

里山の生物の多様性を保全、再生しながら、共存していける里山の「なりわい」とは、それらを持続していくには、どのような意識の改革や、取組みが必要か話し合い、「千葉県生物多様性戦略策定」案に提案する。

## 内 容

### 対談.

「生物の多様性が支える里山のなりわい」

尾形玲子（一二三養蜂園） 倉西良一（千葉県中央博物館）

コーディネーター鈴木優子（下泉・森のサミット）

蜜源の違う蜂蜜を試食、 果実酒展示

### 講演.

「里山の生物の多様性」 中村俊彦（千葉県中央博物館）

### ワークショップ.

「生物の多様性が支える里山のなりわい」

参加者報告と講評（中村、倉西）・



## 目的

里山の生物の多様性を保全、復元するためには農的環境の持続と地域社会が存続できる「なりわい」が必要である。養蜂業など千葉の自然風土に合ったなりわいを提案したい。

## 現状

生物の多様性がどんどん失われている。

かつての里山の多様な「なりわい」は担い手が食べていけなくなって激減。

## 結論

NPO活動を活発化させて一人ひとりが意識を変革し、自然を大切にするアクションを起こす。

多様な資源を活かした地場産業を大切にし、地産地消や援農ボランティアやレンタル農園に取り組む。地権者は他所者でも受け入れる寛容さ、そのためのルールづくり、環境保全、作物に付加価値をつける努力をする。

行政は法律手続きの簡素化、里山の開発制限、ボランティアや起業支援、生物多様性カリキュラムを環境教育として実施する。企業は開発の対価を負う。



## まとめ

参加型の分科会で沢山の提案が出ました。

農業や養蜂業はじめ里山の多様な生物と、利活用する「なりわい」を支援しよう。